

平成元年度畑作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成元年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会を平成元年12月12日、植調会館会議室において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、定性試験3剤、作用性試験15剤、適用性試験31剤であ

った。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行な

った。

その結果は、次表の通りである。

平成元年度 畑作除草剤試験中央判定および使用基準

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準					継 の 内 容	
			処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
1. アイオキシニル乳 ・アイオキシニル……30%	ばれいしょ	「継」	従来の使用基準 茎 葉	萌芽直前	30～45m/l	全 土 壌		・初年目、効果、 薬害の再検討。	
	春播大麦	「実・継」	茎 葉	大麦4～5葉期	10m/l	全 土 壌	寒 地	・現地試験での 実証（MCP との比較）. ・薬量の検討。	
2. ANK-553 乳 ・ペンディメタリン……30%	春播小麦	「実」	土 壌	播 種 後 雑草発生 前	30～40m/l	全 土 壌	寒 地		
3. ANK-553 細粒 ・ペンディメタリン……2%	とうもろこし	「実・継」	土 壌	播 種 後 雑草発生 前	500～ 600 g	全 土 壌 〔砂土を 除く〕	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	・碎土、整地、覆 土はていねい に行つて均一散布 に留意する。	・適用地域の拡大。 ・沖積土における 効果の確認。
4. B-3015・P 粒 ・ベンチオカーブ……8% ・プロメトリン ……0.8%	菜 豆	「継」						・初年目、効果、 薬害の再検討。	

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準					継 の 内 容			
			処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意		
5. BAS-3510 Na 液 ・ペンタゾン ……………40%	大 豆	「継」							・処理時期と効果、薬害および品種間差について再検討。		
6. CG-119 乳+ プロメトリン水和 ・メトラクロール……………45% ・プロメトリン……………50%	大 豆	「実」前年通り	土 壌	播 種 後 雑草発生前	CG-119 20~30ml +プロメ トリン10 ~15 g 〔但し、 寒冷地は 15 g〕	全 土 壌 〔砂土を 除く〕	寒 地 寒 冷 地				
7. CG-123 フロアブル ・アトラジン ……………15% ・メトラクロール……………25%	とうも ろこし	「実・継」	土 壌	播 種 後 雑草発生前	20~40ml	全 土 壌	寒 地 寒 冷 地				
						火山灰土	温 暖 地				
					10~30ml	火山灰土	暖 地				
			茎 葉	とうもろ こしの2 ~4 葉期	20~30ml	全 土 壌	寒 地 寒 冷 地	・生育の遅れる地域（根釧など）では2葉期処理とする。		・効果の再確認。 ・適用土壌の拡大。	
					30~40ml						
											火山灰土
8. Dowco356乳 ・トリディフェン……………40%	とうも ろこし	「実・継」	茎 葉	イネ科雑 草 2~4 葉期	20ml	全 土 壌	寒 冷 地	・イネ科雑草優占圃場で使用する。 ・体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	・薬量の検討。 ・適用地域の拡大。		
9. グリホサート 液 ・グリホサート……………41%	大 豆 （不耕 起）	「実・継」	雑草茎 葉	播種前10 日	25~50ml ＜水量10 l/a＞	全 土 壌	寒 冷 地 温暖地東 部		・効果の再確認。 ・散布水量の検討。 ・適用地域の拡大。		
	かんし よ	「実・継」	雑草茎 葉	挿苗前10 日	25~50ml ＜水量10 l/a＞	全 土 壌	温暖地東 部		・効果の再確認。 ・散布水量の検討。 ・適用地域の拡大。		

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
			処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
10. Hoe-171① 乳 ・フェノキサプ ロップエチル ……9%	大 豆	「実」従来通り	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	7.5～ 10m/l	全 土 壌	全 域	・イネ科雑草優占 圃場で使用する。 ・体系処理：広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。	
	小 豆	「実・継」従来通り	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	7.5～ 10m/l	全 土 壌	寒 地 寒 冷 地	・イネ科雑草優占 圃場で使用する。 ・体系処理：広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。	・適用地域の拡 大。
11. Hoe-866 液 ・グルホシネー ト……18.5%	落花生	「実・継」	雑草茎 葉	生 育 期 畦間処理	30～50m/l	全 土 壌	温暖地東 部	・作物にかからな いように散布す る。	・効果の再確認。 ・適用地域の拡 大。
	こんに ゃく	「実」	雑草茎 葉	植付後ま たは培土 後（萌芽 前）	20～30m/l	全 土 壌	寒 冷 地 温暖地東 部	・作物にかからな いように散布す る。	
				生 育 期 畦間処理	30～50m/l				
12. HOK-868 フロアブル ・HOK-868 ……20%	大 豆	「実・継」	茎 葉	イネ科雑 草2～4 葉期	7.5～ 10m/l	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地	・イネ科雑草優占 圃場で使用する。 ・体系処理：広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。	・適用地域の拡 大。
					5～ 7.5m/l		暖 地		
	てんさい	「継」							・初年目、効果、 薬害の再検討。
13. HSW-881 水和 ・シンメスリン ……9% ・リニュロン ……7% ・IPC…15%	大 豆	「継」							・初年目、効果、 薬害の再検討。
	菜 豆	「継」							・初年目、効果、 薬害の再検討。
14. HSW-884 液 ・既知化合物 ……60%	春播小 麦	「継」							・初年目、効果、 薬害の再検討。

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準					継 の 内 容
			処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	
15. HSW-891 水和 ・既知化合物 ………25% ・メトリブジン ………10%	小 豆	「継？」						・薬害と効果不安定。
16. HSW-892 水和 ・既知化合物 ………5% ・IPC…14% ・尿素系既知化合物……12%	小 豆	「継？」						・薬害と効果不安定。
17. HSW-893 水和 ・既知化合物 ………12% ・尿素系既知化合物……24%	小 豆	「継？」						・薬害と効果不安定。
18. IPC乳+プロ メトリン水和 ・IPC… ………45.8% ・プロメトリン ………50%	小 豆	「実」	土 壌	播 種 後 雑草発生 前	IPC 20 m/ +プロ メトリン 10~15 g	全 土 壌	寒 地	
19. KTH-25 乳 ・成分未公開 ………10%	大 豆	「継」						・成分未公開, 効果, 薬害の 再検討。
20. MB-206 粒 ・リニュロン ………1.5%	そ ば	「継」						・効果, 薬害の 再検討。
21. MW-831 水溶 ・ピアラホス ………20%	大 豆 (不耕 起)	「実」	雑草茎 葉	播 種 前	30~50 g	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	・周辺作物に飛散 しないよう散布 する。 ・雑草の生育量に 応じて薬量を増 減する。 ・雑草の草高30cm 以下の時期に使用 する。
	ばれい しょ	「実」	雑草茎 葉	萌 芽 前 雑草生育 期	20~30 g	全 土 壌	全 域	

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準						継 の 内 容
			処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
22. MW-DC 水和 ・ピアラホス ……………12% ・DCMU ……………18%	ばれい しょ	「実・ 継」	雑草茎 葉兼土 壌	萌芽直前	20～30 g	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地		・適用地域の拡大. ・効果の再確認.
	こんに ゃく	「継」							・初年目, 効果, 薬害の再検討.
23. NP-55 乳 ・セトキシジム ……………20%	えんどう	「実」 前年通り	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	15～20ml	全 土 壌	寒 地	・イネ科雑草優占 圃場で使用する. ・体系処理: 広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する.	
24. S-604 乳 ・クレソジム ……………25%	大 豆	「継」							・初年目, 効果, 薬害の再検討.
	小 豆	「継」							・初年目, 効果, 薬害の再検討.
	かんし ょ	「実・ 継」	茎 葉	イネ科雑 草2～5 葉期	2.5～ 5 ml	全 土 壌	温 暖 地 暖 地	・イネ科雑草優占 圃場で使用する. ・体系処理: 広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する.	・効果の再確認.
	てんさい	「継」							・初年目, 効果, 薬害の再検討.
25. SAP・プロメ トリン 乳 ・SAP…50% ・プロメトリン ……………5%	えんどう	「実」	土 壌	播 種 後 雑草発生 前	80ml	全 土 壌	寒 地		
26. SB-508 乳 ・成分未公開 ……………63%	大 豆	「継」							・成分未公開.
	とうも ろこし	「継」							・成分未公開.
27. SL-236乳+ フェンメディフ ァム乳 ・フルアジホッ プ……………35% ・フェンメディ ファミ……………13%	てんさい	「実」	茎 葉	移 植 後 雑草発生 揃	SL-236 7.5～10 ml+フェ ンメディ ファミ60 ml	全 土 壌	寒 地		

薬 剤 名	作物名	判 定	使 用 基 準					継 の 内 容	
			処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
28. SL-236乳+ レナシル・PAC 水和 ・フルアジホッ プ……………35% ・レナシル ……………40% ・PAC…30%	てんさい	「継？」							・処理時期の不 確定.
29. SL-950 フロアブル ・SL-950 ……………4%	とうも ろこし	「実・ 継」	茎 葉	とうもろ こしの3 ～4葉期	10～15m ² /	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地		・適用地域の拡 大. ・効果の再確認. ・薬量、品種間 差の検討. ・後作への影響 の検討.
30. アラクロール乳 +プロメトリン 水和 ・アラクロール ……………43% ・プロメトリン ……………50%	菜 豆	「継？」							・薬害.
31. CG-119・P 細粒 ・プロメトリン ……………1% ・メトラクロール ……………2%	大 豆	「実」 前年通り	土 壌	播 種 後 雑草発生 前	500～ 600 g	全 土 壌	全 域	・碎土、整地、覆 土はていねい に行って均一散布 に留意する. ・乾燥により効果 の劣ることがあ る. ・砂土系や透水性 のよい圃場や雨 の降り続く時期 の散布は薬害の 危険がある. ・水田転換畑でも 利用できる.	

注) ① —— は、本年度拡大または追加された部分を示す。なお、薬剤名の —— は、本年度はじめて使用基準の作成されたものである。

② ----- は、その一部が拡大されたものである。